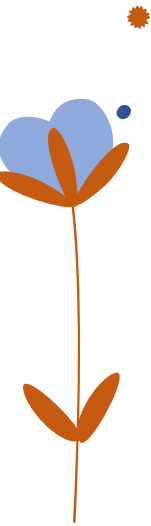
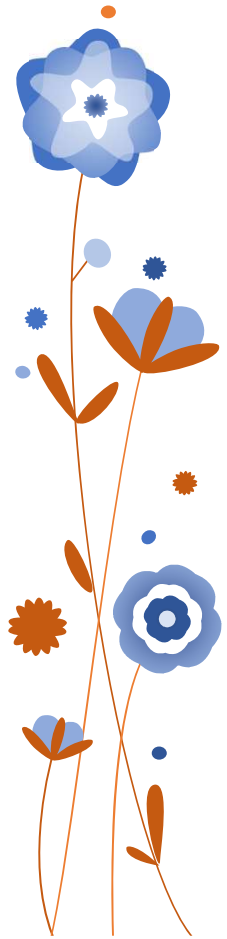


放送番組やICT活用を 位置づけた「研究発表」

『新・ざわざわ森のがんこちゃん
もしものときのがんこちゃん』を利用した
『防災教育』への取り組み

学校法人青木学園 花川南認定こども園
主幹保育教諭 山平 祐理



花川南認定こども園のあゆみ

- 
- 昭和61年12月

学校法人青木学園として認可を受け、同年12月設立

- 昭和62年 4月

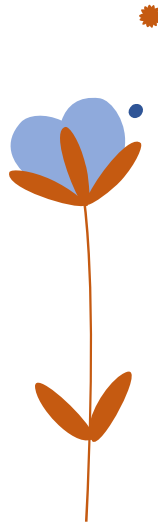
「花川南幼稚園」を開園

- 平成22年12月

認定こども園「花川南幼稚園・花川南保育園」と認可

- 平成27年 4月

新制度にて「花川南認定こども園」となり現在に至る



花川南認定こども園の「教育」について

- 本園は、昭和62年の開園当初より教育の一環として『モンテッソーリ教育』と共に『放送教育』を取り入れている
- 子どもが積極的に様々な活動に取り組めるように自由活動の時間を多く取り入れている
- 保育教諭は、子どもの生活にふさわしい遊び場を考え、創意工夫を凝らすことが出来る遊具・教具や教材を年齢や季節に応じて選択し、日々の活動を通して豊かな心情が育つよう配慮すると共に、落ち着いた雰囲気を作ること心掛けています

花川南認定こども園の「番組視聴」について

- 年度初めに各学年で話し合い、決定
- 令和5年度
 - 年少組 ～ 「ピタゴラスイッチ」
 - 年中組 ～ 「ノージーのひらめき工房」
 - 年長組 ～ 「しぜんとあそぼ」

上記の番組は『継続視聴』
その他の番組もテーマによって
視聴しています



どうしたら良いのか？ 避難訓練への悩み

上記のように考えるきっかけになったのは……

- ・月に1回行う「避難訓練」
いつ起こるか分からないから行う大切なこと
→ 「本当の火事（地震）じゃないから…」
子どもたちの意識が低くなっていることが課題



内容の工夫での対応



令和4年度から『防災紙芝居』の導入開始



もう一歩進めていくことが必要なのかもしれない……

避難訓練

紙芝居

放送教育

取り組みに向けて ～事前準備～

まずは『やってみよう!!』 何かが変わるかも
!!?

1. 『防災教育』番組の検討
2. 職員での事前視聴
3. 指導案作成
4. クラスでの番組視聴
5. 反省
6. 今後の課題について

- パソコンを使用しての視聴には慣れてきている
- 職員のパソコンスキルには個人差はあるが、現場で困難が生じることはない
- 新しいことに挑戦することで、今までとは違った経験や発見がある
 - 失敗についても想定される為、その都度反省
- 職員間での意見交換を密に行う
- 『防災教育』は引き続き導入していく
 - 今後他に出来ることを検討

『新・ざわざわの森のがんこちゃん もしものときのがんこちゃん』を活用しての年間計画

6・7月

- ・ 視聴番組の決定 → 『新・ざわざわ森のがんこちゃん』 もしものときのがんこちゃん
- ・ 内容の検討（「地震」・「台風」）

9月

- ・ 2クラス（さくら・ひまわり組）で視聴 → テーマ「地震」

10月

- ・ 上記以外の2クラス（ゆり・すみれ組）も視聴
- ・ 地震以外のテーマでの視聴を計画
- ・ 別番組の視聴検討（『ストレッチマンレスキュー』等）

『新・ざわざわの森のがんこちゃん もしものときのがんこちゃん』を活用しての年間計画



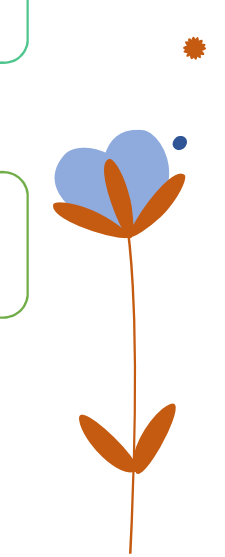
11月

- ・ 台風のテーマでの視聴（4クラス）
- ・ 同テーマの別番組の視聴

12・1月

- ・ 視聴した『地震』『台風』に関連することで子どもの興味関心があることを調べる

2・3月

- ・ 1年を通して番組視聴で学んだことを振り返る（確認・新たな気づき）
 - ・ 保育教諭側の反省・次年度への課題の共有
- 



視聴開始～初めての『防災番組』

視聴中の様子がいつもと違う?!

視聴前は、色々と話していた子どもたち。(いつも通り「見たことある(ない)」「知っている(いない)」意気揚々と話していたのは、オープニングまで。

お話が始まると、急に静かになり集中!!

『見る』こと以外に、子どもたちがどう思っているかを問われる場面では・・・。

→ 多くの子どもたちが指をさして答える姿が見られた
年長組では、選んだ理由も話す子どもがいる

参加しながらテーマについて学べることが子どもたちとマッチ



視聴後にも、子どもたちから『地震のときはどうするか?』の振り返りが自然と始まった
シンキングタイムの内容も時間を気にせずにみんなで考えてみた

実際にやってみたこと (シンキングタイムをもう一度)

・視聴直後



全員で“だんごむし”ポーズ



頭の守り方をお互いに確認



「あたまのここを
まもるんだよ」



「こっち!」
「そっちはあぶないよ」

どちらも年長児を中心に話が
進み、年中児は真似する姿が
見られた



「みほんを
みせるよ」



「川には近づかない」に対して疑問を持つ子ども



「まちがっておちるかもしれない」という意見が多い
落ちない様に歩けば大丈夫なのでは?

地震発生後に起こりうる『津波』『山崩れ』等の
知識が乏しい

→ 動画検索: 胆振東部地震 (『山崩れ』)

津波については、東日本大震災の様子を話した

もっと知りたい (探求心)の芽生え

もっと『地震』について調べたい!!との意見
後日理解を深める為に視聴を予定していた
『ストレッチマン・ゴールド
地震にそなえよう!
ストレッチマンレスキューあらわる』を視聴



知っていること以外の内容に
「こんどからきをつけないとね」と新たな発見!!

ストレッチマン・ゴールドを視聴して・・・

『地震が起こるのはいつも教室にいる時とは限らない』

→ 教室以外の場所で実践してみたことがなかった
移動している最中の『地震』を想定

【廊下】



「いいところ
みつけたよ」

【ホール】

「うえからものが
おちてこないとこ
をみつけよう!」



視聴で知り得た情報を
自分たちなりに考えて実践する姿が見られた

何が違う?! ～防災紙芝居との反応の違い～

- ・紙芝居は日頃から慣れ親しんできたもの
現代の子ども 視覚からの情報と言えば・・・テレビが中心（実際に動く物の方が理解しやすい）
- ・子どもたち自身が興味を持って活動出来た
自分たちで「もっとしりたい」「しらべたい」気持ちになった

ICT活用をもっと取り入れていくことで
子どもたちの活動もより豊かなものになっていくのでは・・・

- 全てにおいてICT活用とはいかない
日常生活の中での直接体験を大切にしながら、体験が難しいことやより学びを深めたいこと
等はICTを活用するという形をとっていきたい

今後の課題

- ICTに対して苦手意識を持っている職員もいる
 - 子どもたちと一緒に楽しく学ぶ気持ちで取り組む
長く取り組むためにも決して気負うことなく、得意な職員を中心に行っていく
園内外での研修にも積極的に参加する
- 子どもが『調べたい』『知りたい』と思った時にすぐに対応できる環境をより整える
 - 現状では、子どもたちからの全ての要望に対応できていない
テレビ視聴を絡めての活動が多い為、その時には取り組める → もっと身近にしたい
↓
子どもたちも『何を・どのように』という部分が曖昧
日々の保育の中で必要な情報収集に活用していきたい
(幼児期ならではの事象)
- 保護者に向けての情報発信
 - 教育の一環として行っているため理解はあるが、内容まではしっかりと把握出来ていない
日々の保育として様子を知らせる+αが必要になってくる(就学に向けて)

改めて考えてみよう

幼児期に考える『防災教育』とは・・・？

- ・幼児期は園にいる時に限らず、子どもがひとりになることはほぼない
→ 大人といることが前提の中で行われるもの
- ・活動の中で大切にしたいと考えるのは・・・『安心感』
→ 何があっても大丈夫、大人に守ってもらえるという安心感
子どもたちのトラウマになってはいけない

しかし、今まで職員間で話し合ったことはなかった実情

- ・幼児期では、どのようなことを目指すのか、その為の指導とは？
身に付けることは何か？

今後考えていきたい課題となる

最後に・・・

・放送教育を取り入れている幼稚園・保育園・こども園が北海道内では減少している現状
コロナ禍もあり、他園での活動に対して情報交換が難しいことが続いた
今後は新型コロナウイルスに対することが色々と緩和されてきたことで、
改めて活動の場を設けて、より良いICT活用について学びを深めていきたいと考えている

・今回は、主に『新・ざわざわ森のがんこちゃん もしものときのがんこちゃん』を利用したが
他の番組も考えた時、幼児期の子どもたちが分かりやすい番組があればと思う
新番組『キキとカンリ』でも学べることはある

しかし、幼児期にはまだ難しい部分があるとも感じる

本スライド内の画像は、
NHKforschool

『新・ざわざわ森のがんこちゃん もしものときのがんこちゃん』『ストレッチマン・ゴールド』から
使用させて頂きました

